11月7日のウクライナ情報

安斎育郎

❶あるツイッターのウクライナ戦争観（2023年11月4日）

※投稿者コメント：米帝について＝ウクライナでの敗北とアメリカ帝国の終焉は衝撃的で恥ずかしい。米帝/EU 当局者はウクライナと協力して「和平」計画、つまりロシアへの降伏を目指している。

ウクライナでは兵士が不足しており NATO の訓練を受けたナチスは全員死亡した。

米帝/欧州は弾薬が不足し、そして強力な反ロシア制裁は失敗した。これは単純な問題ではありませんでした、米帝はロシアを封じ込めるためウクライナを準備するのに 20 年を費やしてきたが全てが水の泡。

特にイスラエルがガザで屈辱的な敗北に直面した場合、2023 年は米帝の崩壊として歴史に記録されるだろうと言う。

最後に、ウクライナも今後・戦後賠償が大変でしょう。

今のイスラエル戦争とは訳が違いますから、ロシアは砲弾を今までに 1.000 万発も使っているが、またロシアのプーチン大統領はウクライナと交渉する用意があるという保証は今のところ、ゼロだと言う。しかしロシアが当初の目的を達成するのか、それともウクライナを占領するのか疑問、おそらく後者は反ロシア国家になるのを避けるため、それを行う可能性は十分にあるようです（ポーランドは特に酷いが、プーチンは後者を選択する可能性もあり完全な占領かも知れないと言う）

ロシアに制裁を科した国々は今後どうするつもりでしょう？ロシアは平和になってももう彼らとは取引しないでしょう。現在取り引き先は大きく変わっています。

https://twitter.com/miya397156651/status/1720761730069123490?s=09

❷元ワーグナー戦闘員がドンバスでロシア軍に再合流（2023年11月4日）

PMC の元メンバーで編成された新部隊は現在、「アクマット」特殊部隊の一員として現地で訓練を受けている。

ワグネル民間軍事会社（PMC）の元戦闘員が正式にロシア軍に合流し、ドンバスでの戦闘に再参加するための部隊を結成したと、新部隊の司令官が今週ロシアメディアに語った。カメルトン」（「音叉」）と呼ばれ、元傭兵を使って結成されたこの部隊は、現在、モスクワとキエフの紛争が始まって以来、ほとんどずっと関与してきたチェチェンの精鋭「アクマット」特殊部隊の一部である。

ドンバスの基地で戦闘訓練を受けている元ワグナーの戦闘員たちの映像がネット上で公開され、RT がそれを見た。その映像には、部隊のメンバーが偵察機や戦闘用ドローンを操作したり、敵の防衛陣地や塹壕を模擬的に襲撃したり、模擬戦闘で大砲や迫撃砲、重装甲車を使用したりする様子が映っている。

部隊の指揮官は、ワンゲル PMC の一員として戦おうが、正規軍の一員として戦おうが、戦闘員たちは「仕事を続ける」決意を固めていると述べた。アクマット特殊部隊はロシア国家警備隊の一部であり、大統領と国家安全保障会議のトップに直接報告する内部軍隊である。

我々は祖国と契約を結んでいる」と、部隊の現状についてコメントした。彼はまた、自分の部隊はアクマトの司令官であるアプティ・アラウトディノフと「絶対的な理解」に達しており、その「方法」と戦闘戦術、そして内部構造を「維持」することが許されていると述べた。また、ロシア軍は彼の隊員たちに十分な物資を供給している、と彼は付け加えた。

新部隊の規模は不明だ。将校によると、この部隊には中隊レベルの戦術グループが含まれているという。ロシア・メディアは、装甲部隊と砲兵部隊は旧ワグナーの戦闘員で構成されていると報じている。突撃チームは、旧ワグナーPMC のメンバーに加えて増援を受けており、チームの人員の約 60%を占めている。

https://www.rt.com/russia/586584-wagner-join-russian-forces-donbass/

❸ウクライナの大統領と軍司令官は同盟国に失望し、疲弊しきっている（2023年11月3日）

今週発表された 2 本の記事は、ロシアとの戦争におけるウクライナの見通しを厳しく評価している。

ひとつはウクライナ軍の最高司令官によるもので、戦場は膠着状態に達しており、モスクワを利する長い消耗戦が待ち受けていると認めている。もうひとつは、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領が、同盟国を説得し、信頼を維持するための絶え間ない努力に疲れ果てているというものだ。

ウクライナの軍事責任者であるヴァレリー・ザルジニー将軍は、『エコノミスト』誌の長いエッセイとインタビューの中で、「第一次世界大戦と同じように、我々は膠着状態に陥る技術レベルに達している」と語っている。

彼は認めている：「おそらく、深く美しいブレークスルーはなく、壊滅的な損失と破壊の均衡が続くだろう」。

同時に、TIME のサイモン・シャスターとのインタビューで、ゼレンスキーは「私ほど私たちの勝利を信じる者はいない。誰もだ」と語っている。しかし彼は、ウクライナの同盟国にそのような信念を植え付けるには、”すべての力とエネルギーが必要だ ”と付け加えた。

大統領の側近に長い間接触してきたシャスターは、ゼレンスキーは疲れていて、時に苛立ち、同盟国のコミットメントが薄れてきていることに不安を抱いていると描く。

「戦争による疲労は波のように押し寄せてくる。アメリカでもヨーロッパでもそうだ。

❹ウクライナ大統領、来春の大統領選実施「検討」（AFP，2023年 11 月 4 日）

AFP＝時事】ウクライナのドミトロ・クレバ（Dmytro Kuleba）外相は 3 日、ウォロディミル・ゼレンスキー（Volodymyr Zelensky）大統領がロシアによる侵攻を考慮しつつ来年大統領選を実施できるか「検討」していると明らかにした。

大統領選は来春に予定されているが、ロシアの侵攻を受けて発令している戒厳令を厳密に解釈すれば、すべての選挙が中止となる。

クレバ氏は会見で「世界広しと言えども、これほど大規模な侵攻を受けながら選挙の実施を検討している国は他にないと思う」「だが、われわれはこのページを閉じるつもりはない。ウクライナ大統領はさまざまな是非を検討している」と述べた。

一方で、大勢のウクライナ国民が国外に避難するか、前線で兵士として戦っている現状を考えれば、選挙の実施は困難との見方を示した。

また、投票所がロシア軍のミサイル攻撃や無人機攻撃の「格好のターゲット」にされる恐れもあるとも述べた。

今年 10 月に予定されていた議会選も、ロシアによる侵攻の影響で中止された。

大統領府顧問を務めていたオレクシー・アレストビッチ（Oleksiy Arestovych）氏は今週、反攻が遅いとゼレンスキー氏を批判し、大統領選に出馬する意向を表明した。【翻訳編集】 AFPBB News

https://news.yahoo.co.jp/articles/17189c0da367d55ba5cd3d28ba9c34c7348bdd28/images/000

❺欧米、ウクライナに停戦促す動き　米NBC報道（産経新聞、2023年11月4日）

ロシアによるウクライナ侵略で、米NBCニュースは4日、複数の米当局者らの話として、ウクライナを支援する欧米諸国がウクライナ側と停戦について「ひそかに」協議を始めたと伝えた。ウクライナ軍の反攻が進まず戦局が膠着（こうちゃく）していることや、ウクライナ軍の疲弊、イスラエルとイスラム原理主義組織ハマスとの交戦などを背景に、欧米側のウクライナ支援の余力が低下していることが背景だとしている。

NBCによると、停戦に関する欧米とウクライナの協議は、50カ国以上が参加した10月のウクライナ支援国の会合の中で行われた。ウクライナがロシアに一定の譲歩をする見返りに、北大西洋条約機構（NATO）がウクライナの安全を保証し、ロシアの再侵略を防ぐ案が浮上しているという。

ウクライナのゼレンスキー大統領は従来、停戦はロシアによる占領地支配の既成事実化と将来的な再侵略を招くとしてプーチン露政権との交渉を否定。ただ、ウクライナも欧米側の意向を無視できない見通しで、今後、停戦に向けた動きが表面化する可能性もある。

https://news.yahoo.co.jp/articles/7e75baebd2fbf0291510d04adb21c4a29dbfde76/images/000

❻ウクライナへの国際的関心低下か　ゼレンスキー大統領が認める（2023年11月5日）

【キーウ共同】ロシアの侵攻を受けるウクライナのゼレンスキー大統領は ４ 日、パレスチナ自治区ガザ情勢を受け、ウクライナへの国際的な関心が低下しているのは「事実だ」と認め「ロシアの狙いの一つだ」と述べた。首都キーウ（キエフ）を訪問した欧州連合（EU）のフォンデアライエン欧州委員長との共同記者会見で述べた。

ウクライナでは、関心低下に伴って欧米の支援が先細りになるのではないかとの懸念が出ている。ゼレンスキー氏は、ガザ情勢に関心が向くことを「理解できる」とした上で「われわれはウクライナにほとんど注意が払われなかった非常に困難な時期を経験し、乗り越えた。今回の難問を克服できると確信している」と強調した。

4日、記者会見するウクライナのゼレンスキー大統領（右）と欧州連合（EU）のフォンデアライエン欧州委員長＝キーウ（ロイター＝共同）（KYODONEWS）

https://news.yahoo.co.jp/articles/c73493e6cec4d50e4f0106c2809ca509f1e360e8/images/000

❼ウクライナ軍「兵士が１つ１つ丁寧に地雷を除去」無人除去車やドローンだけでなく兵士が多くの地雷を除去（2023年11月５日）

2023 年 11 月にウクライナ軍は公式 SNS で、ロシア軍が敷設した地雷を探知しながら１つずつ丁寧に除去しているウクライナ兵を紹介するショート動画を公開していた。「ウクライナ兵が １ つ１ つ丁寧に地雷の除去をしています」とコメント。

2022 年 2 月にロシア軍がウクライナに侵攻してから、ロシア軍は大量の対人地雷、戦車用の地雷をウクライナの最前線に設置している。ロシアは対人地雷の使用、生産、移譲などを禁止しているオタワ条約（対人地雷全面禁止条約）に加盟していない。

ロシア軍はウクライナに侵攻してから勝手に対人地雷、対戦車地雷を敷設しており、ウクライナ政府職員やウクライナ軍の兵士が地雷を探知したら丁寧に爆破して除去している。多くのウクライナ兵や一般市民が対人地雷の犠牲になっている。地雷では殺害されることはほとんどないが、手足が吹っ飛んでしまう。また小型のおもちゃのようにも見える対人地雷は子供や一般市民が拾ってしまい、爆発したら手足が吹っ飛んでしまう大けがをすることになる。地雷の他にも不発弾や、迎撃されたが上空で爆発しないで墜落した「爆弾を搭載した神風ドローン」なども地上に散乱しており、それらも何も知らずに踏んだり触ったりしてしまうと爆発する危険性がある。対戦車地雷は戦車を撃破することを目的にしているので破壊力も強い。人間が対戦車地雷と知らずに触ってしまったら大爆発して死亡する可能性が高い。

地雷除去車やドローンによる地雷除去には限界も

ウクライナ政府やウクライナ軍は欧米諸国が軍事支援で提供してくれたり、ウクライナの農民自らが独自に開発したりした地雷除去用の無人車などで地雷原で地雷の除去をしてきた。しかし地雷除去車は足りていない。

ウクライナ軍が紹介していたように、ウクライナ兵や専門教育を受けたボランティアが１つ１つ地雷を探知しながら除去しているのが一番多い。時間も稼働もかなりかかっている。人間の兵士が地雷を探知して除去するのは大変な作業で危険を伴っている。多くの地雷は草原や茂みなど目立たないところに敷設されていて、兵士や一般市民が地雷とわからずに触れてしまい爆発している。そのため地雷の探知と除去は命がけである。

大型の地雷除去車は稼働するときに大きな騒音を伴うデメリットがある。「無人地雷除去車」は鉄の塊やチェーンで草原の地雷を探知し、地雷を探知したら爆破して除去する。鉄の塊やチェーンが回るたびに、そして主に対戦車地雷を除去する際の爆発で大きな音がする。また地雷原で地雷除去をするために特にチェーンを大きく回転させている時には砂煙も上がるので上空の監視ドローンなどからも目立つ。そのため、すぐにロシア軍に発見されて攻撃の標的にされてしまう。そして地雷原で破壊されてしまった無人地雷除去車を片付けるためには、周囲の地雷を除去してから地雷除去車を撤去しないと、地雷除去車を撤去するためのレッカー車やトラックが地雷で爆破されてしまう危険がある。今後、静音化できるようになったとしても上空の監視ドローンからは大きく目立ってしまうので攻撃の標的になりやすい。特に地雷除去車による地雷除去は広い草原など上空からも目立つような場所で行っているので、監視ドローンにすぐに探知されてしまう。さらに広い草原などでの地雷の除去には適しているが、人しか入れないような小さな通り道などには入って行くことができないので、そのような小さな道に埋められた地雷の除去は人間の兵士による除去の方が適している。

大型の無人地雷除去車は広大な場所での大量の地雷を除去するには適しているが、作業時には大きな音もするし、上空からも目立つのですぐにミサイルや攻撃ドローンの標的にされて破壊されやすい。リモート操作で無人機なので人間の兵士が攻撃時に命を落とすリスクはない。だが地雷除去車は破壊されたら草原に鉄の塊が残るだけで、地雷除去車自体の撤去作業にも相当な稼働とコストがかかる。

対戦車地雷のように道路に置いてあり、上空からも目立って見える地雷はドローンで見つけてドローンから爆弾や手榴弾を投下して地雷ごと爆破している。そのような地雷爆破を上空のドローンから撮影した動画やシーンは目立つので SNS などでも拡散されるが、そのような上空からも目立つところに大量に地雷が置いてあることは多くない。多くの地雷が見えない草原や地中に埋められており、知らないで触れてしまって爆発している。そのような見えない草原や地中に埋められている地雷は人間の兵士やボランティアが丁寧に１つ１つ除去していくしかない。

https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/2ab1e70381d3b32c36d4af5a19351f2b84a92529

❽ウクライナ、ハルキウ州で製造された初の無人地雷除去車：300 個以上の対人地雷を除去（佐藤仁学術研究員・著述家、2023年20月23日）

300 メートル離れた場所から操作可能で人間の兵士のリスク回避

2023 年 10 月にウクライナのハルキウ州知事のオレグ・シネグボウ氏が自身の SNS で、ハルキウ州で製造された無人地雷除去車を使用して地雷除去を行っていることを明らかにした。4 か月間プロトタイプで試験を行ってから運用を開始した。ハルキウ州では 9 台の無人地雷除去車で地雷除去を行

っているが、ハルキウ州で製造された無人地雷除去車はこれが初めてである。
　ハルキウ州知事によると既に 300 個以上の対人地雷を除去した。300 メートル離れたところがリモートで操作ができるので人間の兵士が地雷除去で地雷の犠牲になるリスクがない。敷設されているうち 95%の地雷は除去できるとのこと。
　大きな騒音と大型な車両で上空からは目立ってしまい攻撃の標的にされやすい無人地雷除去車
　2022 年 2 月にロシア軍がウクライナに侵攻してから、ロシア軍は大量の対人地雷、戦車用の地雷をウクライナの最前線に設置している。ロシアは対人地雷の使用、生産、移譲などを禁止しているオタワ条約（対人地雷全面禁止条約）に加盟していない。
　多くのウクライナ兵や一般市民が対人地雷の犠牲になっている。地雷では殺害されることはほとんどないが、手足が吹っ飛んでしまう。また小型のおもちゃのようにも見える対人地雷は子供や一般市民が拾ってしまい、爆発したら手足が吹っ飛んでしまう大けがをすることになる。地雷の他にも不発弾や、迎撃されたが上空で爆発しないで墜落した「爆弾を搭載した神風ドローン」なども地上に散乱しており、それらも何も知らずに踏んだり触ったりしてしまうと爆発する危険性がある。
　ウクライナ政府やウクライナ軍は欧米諸国が軍事支援で提供してくれたり、ウクライナの農民自らが独自に開発したりした地雷除去用の無人車などで地雷原で地雷の除去をしてきた。しかし地雷除去車は足りていない。
　このような大型の地雷除去車は稼働するときに大きな騒音を伴うデメリットがある。「無人地雷除去車」は鉄の塊やチェーンで草原の地雷を探知し、地雷を探知したら爆破して除去する。鉄の塊やチェーンが回るたびに、そして主に対戦車地雷を除去する際の爆発で大きな音がする。また地雷原で地雷除去をするために特にチェーンを大きく回転させている時には砂煙も上がるので上空の監視ドローンなどからも目立つ。今回ハルキウ州で開発、製造された無人地雷除去車も大きな鉄の塊を回しながら地雷を除去している。
　そのため、すぐにロシア軍に発見されて攻撃の標的にされてしまう。そして地雷原で破壊されてしまった無人地雷除去車を片付けるためには、周囲の地雷を除去してから地雷除去車を撤去しないと、地雷除去車を撤去するためのレッカー車やトラックが地雷で爆破されてしまう危険がある。今後、静音化できるようになったとしても上空の監視ドローンからは大きく目立ってしまうので攻撃の標的になりやすい。特に地雷除去車による地雷除去は広い草原など上空からも目立つような場所で行っているので、監視ドローンにすぐに探知されてしまう。
　大型の無人地雷除去車は大量の地雷を除去するには適しているが、作業時には大きな音もするし、上空からも目立つのですぐにミサイルや攻撃ドローンの標的にされて破壊されやすい。リモート操作で無人機なので人間の兵士が攻撃時に命を落とすリスクはない。だが地雷除去車は破壊されたら草原に鉄の塊が残るだけで、地雷除去車自体の撤去作業にも相当な稼働とコストがかかる。それでも地雷は除去しないといけないし、人間の兵士や当局職員では時間もかかり危険性も伴うので、ロシア軍から破壊されるリスクも大きいが地雷除去車で作業を続けている。
　対戦車地雷は戦車を撃破することを目的にしているので破壊力も強い。人間が対戦車地雷と知らずに触ってしまったら大爆発して死亡する可能性が高い。
　そしてロシア軍はウクライナに侵攻してから勝手に対人地雷、対戦車地雷を敷設しており、ウクライナ政府職員やウクライナ軍の兵士が地雷を探知したら丁寧に爆破して除去している。人間の兵士が地雷を探知して除去するのは大変な作業で危険を伴っている。
　対戦車地雷のように道路に置いてあり、上空からも目立って見える地雷はドローンで見つけてドロ

ーンから爆弾や手榴弾を投下して地雷ごと爆破している。だが多くの地雷は草原や茂みなど目立たないところに敷設されていて、兵士や一般市民が地雷とわからずに触れてしまい爆発している。そのため地雷の探知と除去は命がけである。

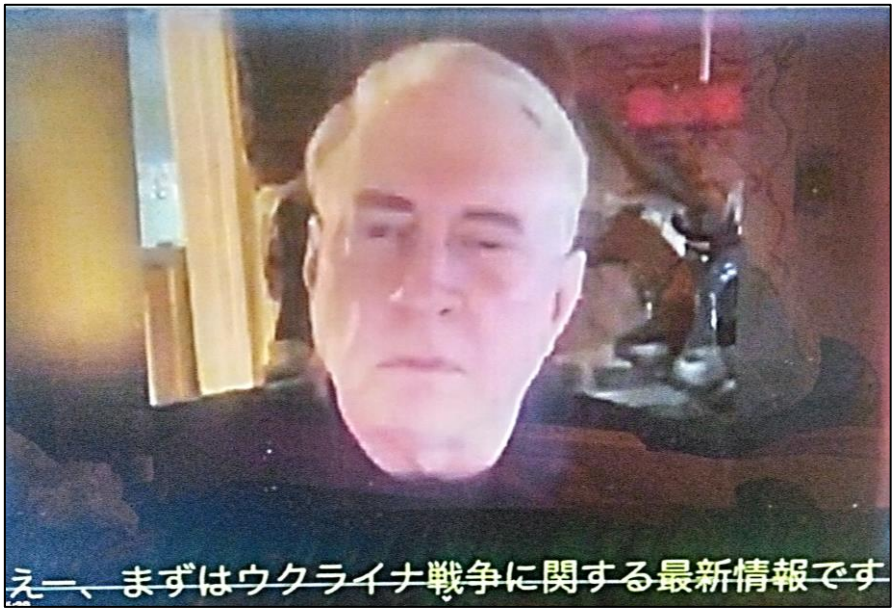
https://twitter.com/i/status/1718261857784356872

https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/b25b4411895b0c47f87e0c930d318774481bfb63

❾ハリコフ包囲と占領。 ダグラスマクレガー（2023 年11月5日）

※安斎注：30 分近い映像だし、字幕がちかちかして目が疲れるし、ときどき意味を取りにくい訳もあるので前半のウクライナ戦争の現段階だけでもご覧になってはいかがかと思います。

https://youtu.be/eu018mNaAes



https://www.youtube.com/watch?v=eu018mNaAes

❿ロンドン中心部で親パレスチナデモ　約 3 万人が“即時停戦”を訴える（テレ朝ニュース、2023 年 11 月 5 日）

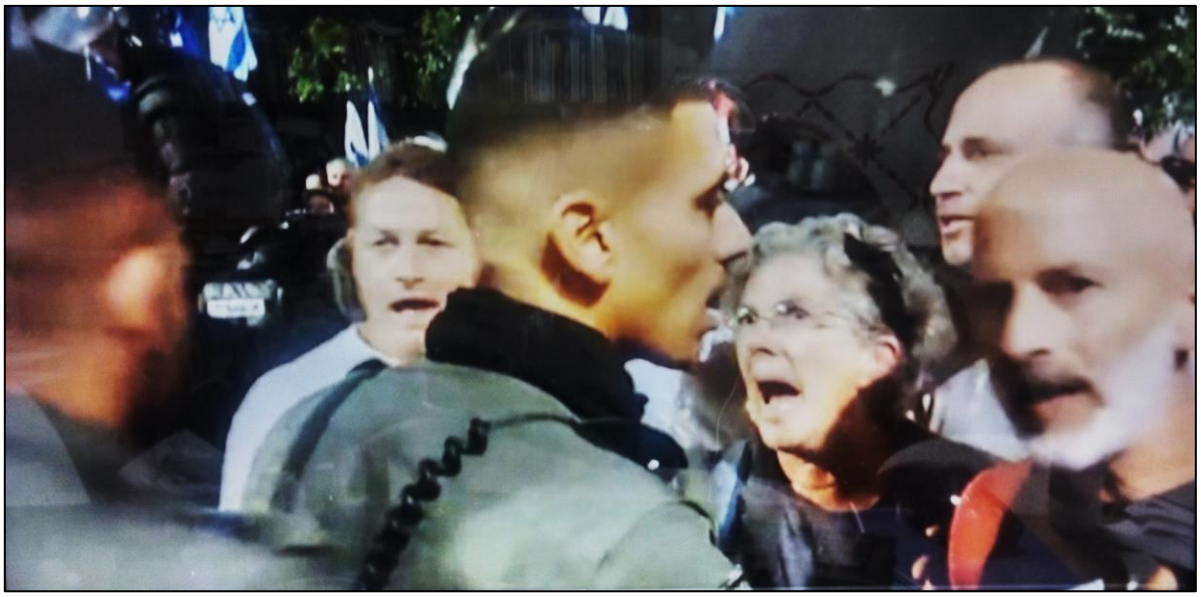
イスラエルとハマスの衝突が続くなか、ロンドン中心部で親パレスチナデモが行われ、およそ 3 万

人が即時停戦などを訴えました。
　ロンドン中心部のトラファルガー広場で４日、親パレスチナデモが行われました。
　集まった人たちはイスラエル軍の攻撃によるガザ地区での民間人の犠牲について虐殺などと非難しました。
　デモ参加者：「ただちに虐殺をやめてほしいです。パレスチナの人たちに土地を返してください。それは彼らの権利で、彼らには自己決定権があります」「デモ参加者がもっと必要です。もっと多くの異なるバックグラウンドの人たちが必要です。皆を待っています」
　イスラエルとハマスの衝突以降、ロンドンでは毎週土曜日に大規模なデモや集会が行われていて、４日のデモにはおよそ３万人が集まったということです。
https://youtu.be/no5cfwUuCd0

https://www.youtube.com/watch?v=no5cfwUuCd0

⓫イスラエルのデモ隊がネタニヤフ首相官邸を襲撃（2023 年 11 月 5 日）

　市民はすでに ２ つの検問所を越え、首相官邸まで行進。抗議者たちの主な要求はガザ地区でのPSパレスチナ市民虐殺の停止である。
https://twitter.com/i/status/1721056145882931408



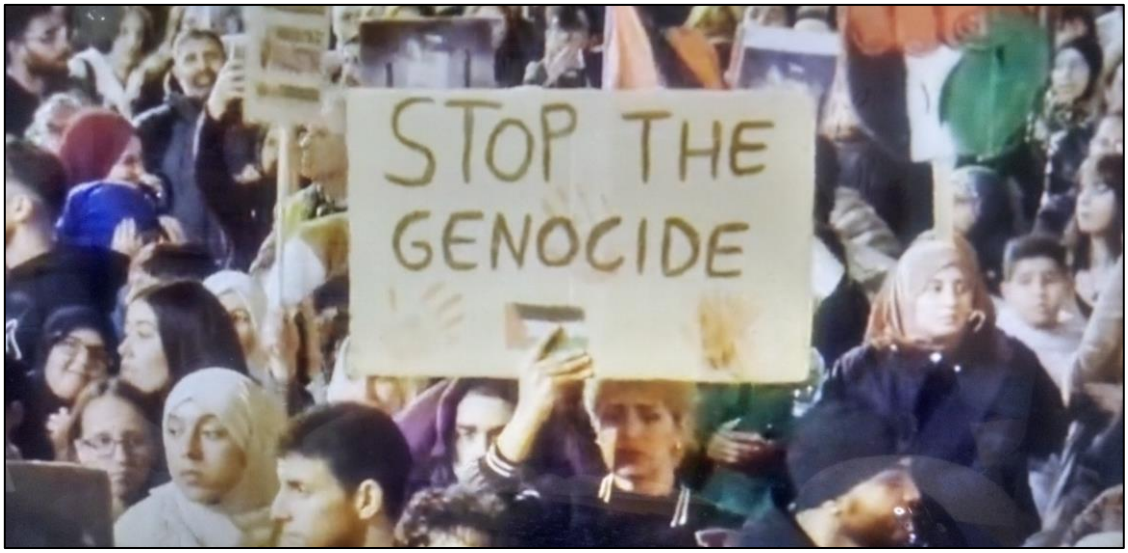
https://twitter.com/Reloaded7701/status/1721056145882931408?s=09

⑫世界各地で停戦を求めるデモ（2023 年 11 月 5 日）

ワシントン

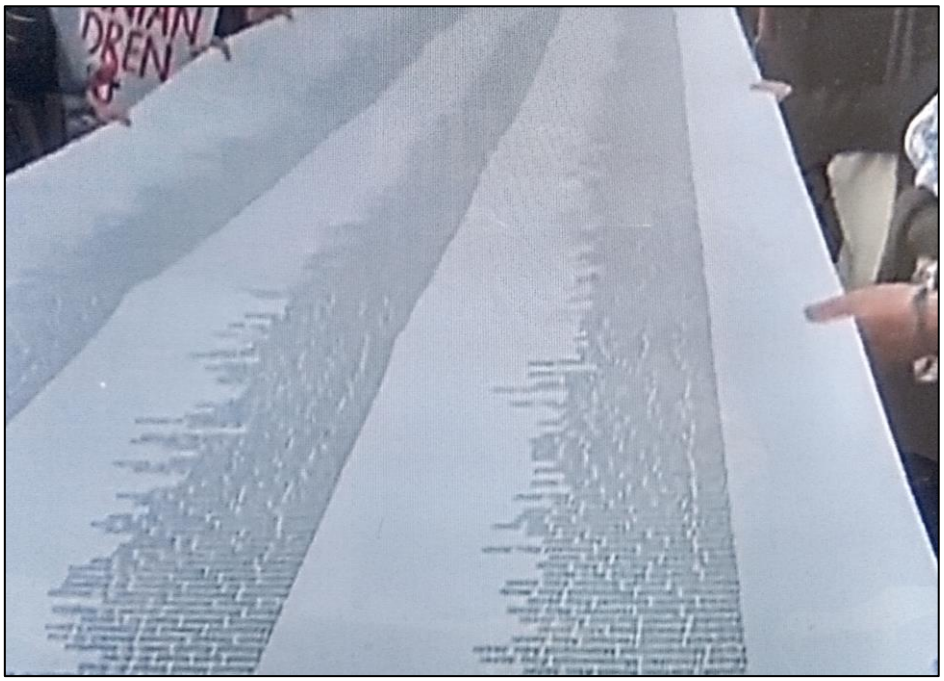
ベルリン

ベネズエラ



スペイン

フランス



ワシントン（死者の名前を書いた長い長いリスト）

イギリス

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1721031355667189898?s=09